

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年十二月度 入選句(投稿総数二千四百五十三句・小中学投句数千七百二十三句)

特選

選者 西田 拓郎

せいざして足がしびれるかるたとり 大垣市 木村 ひより(小三)

かるたはお正月の遊びではありますが、大切にしたい日本の伝統的な文化です。ひよりさんは、正しい姿勢で一生懸命に取り組んでいるんですね。

かるた取りのおもしろさはいろいろあると思いますが、ひよりさんは、その中から「正座して足がしびれた」という実体験だけを取り出して焦点化しています。足がしびれてもかるたを取っているのですから、きつと真剣だったことでしょう。作法を守ったのしいかるた取りの様子が目に浮かびます。

ストーブの上にいつものやかんおく 大垣市 大橋 若奈(小五)

ストーブの上にやかんを置いておくと空気が乾燥しません。若奈さんの家でもそうした工夫をしているんですね。そのやかんはいつも同じやかんで、同じように湯気を立てています。いつものことなので何も思いませんが、とても大切な役割を果たしているのです。若奈さんはそれに気づいているんですね。

やかんに限らず、そんな存在が私たちの身の回りに数多くあります。

朝起きてまだ暗やみの冬の空 大垣市 柳 遥 翔(小六)

同じ時間に同じように起きているのですが、まだ窓の外は真つ暗。誰しもが気づいているのですが、遥翔さんはそれを俳句に表現したところが素晴らしいと思います。何気ない表現から冬の季節感がにじみ出ています。

まだ暗いうちから元気に活動を始める遥翔さんにつられて、冬の空もだんだんと明るくなつていくようです。

秀逸

太陽のひかりをうけて雪光る 大垣市 近藤 舞花(小六)

冬の雨曇って見えない大垣城 大垣市 田辺 英孝(小六)

ストーブの前にみんなが立っている 大垣市 藤井 仁志(小六)

雪だるまバケツのぼうしにあつてる 大垣市 森田 悠斗(小三)

雪がふり車の上はわたがしだ 大垣市 近藤 日和(小三)

しも柱土をもち上げ力もち 大垣市 三田 柊弥(小五)

かるたとりとられてくやしなみだ出す 大垣市 上野 真麻(小二)

こうえんでるすばんしてる雪だるま 大垣市 生駒 海翔(小二)

クリスマスツリーのてっぺんとどかない 大垣市 村上 暢(小五)

雪合戦あたってあてて大さわぎ 大垣市 村上 暢(小五)

入選

日向ぼこたくさん集まりけんかする	大垣市	古賀 允陽(小五)
とんぼ飛ぶぼうしをふっておいかける	大垣市	牧 萌 花(小五)
書いている手が真っ黒に年賀状	大垣市	木村 ひな 胡(小六)
ジャンパーをつきぬけてくるよ北風が	大垣市	高木 愛加(小三)
12月みんなそわそわするきせつ	大垣市	日比 かれん(小三)
さむくてねゆびがうごかず字が書けず	大垣市	竹中 真斗(小四)
冬になり水をさわるのいやになる	大垣市	石司 柊雅(小四)
冬の朝カーテンあけたらまだくらい	大垣市	佐野 諒(小五)
道草がいろんな場しよでおおってる	大垣市	牛田 温斗(小二)
子どもよりもちまきひっしだお父さん	大垣市	杉原 勇次(小二)

入選

夕食に家ぞくだんらん牡丹鍋	大垣市	日比野 徹心(小六)
年末に今年のことをふり返る	大垣市	國枝 鉄矢(小六)
P Kを真ん中に決め冬晴れだ	大垣市	三輪 帆叶(小六)
テスト前いきも頭もまっ白だ	大垣市	小川 真菜(小六)
冬の朝あいさつをして学校へ	大垣市	桐山 陽(小六)
かぜひいてつままないこといっぱいだ	大垣市	新しいりこ(小二)
おかあさんこたつに入りでてこない	大垣市	加藤 愛羽(小二)
かるたとりなかなかとれずじっとみる	大垣市	みうら あいな(小二)
さむすぎて手がうごかない登下校	大垣市	さいとう ゆい(小三)
やきいもといっしょに食べる朝ごはん	大垣市	なかむらしゅんた(小三)

選者吟

息ひとつづつ置いてゆく年の暮

拓 郎